

令和2年度 第2回大口町保育所運営委員会 会議録

開催日時	令和3年3月1日（月）午後1時30分より
開催場所	健康文化センター 1階 多目的室
出席者名	議会議員代表 3名 民生委員・児童委員代表 3名 私立保育園法人代表 1名 保護者代表 8名 事務局 8名
次 第	1 委員長挨拶 2 自己紹介 3 協議事項 (1) 令和2年度保育所運営の報告について (ア) 全体報告 (イ) 各園活動報告 南保育園（資料1-1） 西保育園（資料1-2） 北保育園（資料1-3） 大口中保育園（資料1-4） (2) 令和3年度保育所運営について (ア) 令和3年度保育園園児数について（資料2） (イ) 年間事業計画について「ことしのあゆみ」（資料3） (3) 大口中保育園空調設備改修工事について（資料4） 3 その他

（進行：福祉こども課長）

委員長	1 委員長挨拶 2 自己紹介（紙面上にて確認）
-----	--------------------------------

（進行：委員長）

	3 協議事項 (1) 令和2年度保育所運営の報告について
--	---------------------------------

保育長

・全体報告

保育園では、保育計画を立て、大切なお子様をお預かりする中で、計画的な遊びや活動を展開していきながら、子どもたちの健やかな心身の成長を、保護者の皆さんや地域の方々に見て喜んでいただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きく、保育運営も例年のようには行かず、戸惑いの年になった。

主だった行事が進まず、保護者の皆様や地域の皆様の保育園への出入りも制限させていただき、十分な満足感が得られていないと思っており、大変心苦しく思う毎日を過ごした。父母の会代表の皆様、地域の皆様に大変残念な思いをさせた。

しかし、子どもたちは、このような環境にも負けず、笑顔いっぱい元気いっぱい保育園生活を送れた。新型コロナウイルス感染拡大防止対策に係る支援として、補助金をいただきながら、感染防止に必要な保育環境整備に努め、おもちゃ殺菌保管庫、空気清浄機、園児用机、飛沫防止ガードなどを購入し、衛生面や3密を避ける対策をしてきた。また、保育士のアイデア満載の手作り物品による感染防止に取り組んだり、日々の生活の積み重ねから、子ども自らが予防対策に意識を高め、努力する姿勢が身についた。保護者の皆様にも多大なるご協力をいただいた。保育士や看護師で、衛生管理や感染予防指導もしっかりできていた。大きな行事はできなかったが、保育の工夫をする中で、考え方を変え分散型にすることにより、順調に保育がすすめられた。一人一人の成長がよくわかるようになり、今までよりも良い結果が得られたこともある。例えば、運動会では、学年ごとでの実施により、短時間集中型になり、子どもたちの負担も軽減され、我が子の姿が近くでじっくり参観することができて、保護者の皆さんからも高評価をいただいた。音楽会や生活発表会のお話ごっこは、遊びの様子をビデオ収録し、DVDでお渡しし、保育参観は、保育園での生活の様子を写真化して紙面でお渡しする準備をすすめている。保育の見える化に努めた。パーテーションに一例が掲示してあるので、お帰りの際ご覧ください。これで十分とは思っていません。子どもたちは直接保護者さんを見て、保護者の皆様は直接子どもたちの成長や頑張りをみて、お互い意思疎通・愛着形成ができていくと思うので、来年度はぜひ、早い時期に保育参観を行うことができるように考えている。

今年度においては、年長児の卒園式が無事できるように、子どもたちも保育士も頑張っているのです、あたたかく見守っていただけたらと思う。

・各園活動報告

<南保育園> (資料1-1)

南保育園園長

園の周りは田畑に囲まれ、四季折々の草花が咲くなど、自然環境にとっても恵まれている。大勢の友達と集団で過ごす中で互いに育ち合える場として、また、子ども一人一人の気持ちに寄り添い、様々な体験を通して豊かな心を育む保育をめざしている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に最大限の予防対策をし、園児、保護者、職員の安全を考えた上での新しい生活様式を取り入れた一年だった。保護者の皆様にも、登降園時の消毒や検温チェック、マスク着用などにご理解とご協力をいただき感謝している。

一番上の段の写真は、「郷土を愛する心を育む活動」である。大口町歴史民俗資料館の学芸員に、園周辺地域（大口町の南部地域）にまつわる話を聞いたり、事前に映像や写真を見せてもらった後、実際に現地に行って実物を見る体験をしている。今年度は、「裁断橋物語」と「長松寺の汗かき地蔵」について学んだ。子ども達からは、汗かき地蔵を見て「汗をかいていないから悪いことは起こらないね。良かったね。」との可愛い感想が聞かれ、とても良い経験になったと感じた。幼いうちから自分が住んでいる町のことを知することは、郷土を愛する心を育む最初の1歩だと思う。

2段目、3段目は、「好きな遊びを通して丈夫な体と心を育む」として、園庭の遊具で遊んでいる子ども達の写真。今年度は特に、感染リスクを減らし、子どもたちの心身の発達や豊かな感性と表現を育む上でも、自然豊かな園庭及び周辺の木々や草花に触れたり、木々の葉や草花を集めてままごとやお店ごっこを楽しむなど自然物を利用して子ども自らが工夫して遊ぶことを大切にしてきた。また、広い園庭を走ったり、ドッチボールをしたり、登り棒、雲梯、ブランコ、鉄棒、ハンプリング、滑り台など、沢山ある固定遊具で伸び伸び遊ぶ中で、年齢に応じた体と心の豊かさを育てていきたいと考えてきた。例えば、遊具を使って「登る」「ぶら下がる」「揺れる」「蹴り上げて回る」「高さのある所をくぐり抜ける」「滑り降りる」という様々な動きを経験する中で、バランス感覚が養われ、挑戦する心が育っていったと思う。「一人でできた」という達成感、充実感を味わい、自信に繋げていった。一人一人、好きな遊びは違うが、いつでも遊べる環境に遊具があることや年長児が得意気に遊ぶ姿に刺激を受けて「自分も挑戦してみよう」という気持ちが育つ環境にあることが南保育園の良さだと改めて感じた。危険だからと制限するのではなく、保育士が手本を見せ、正しい使い方や安全な遊び方を知らせていくことも大事にしてきた。また、写真にはないが、年齢に応じて縄跳び、フープ、跳び箱など「少し頑張ればできる」と感じられるような挑戦したくなる遊びを行う中、先日、年長児の跳び箱では6段の跳び箱を軽々跳ぶ子も何人もおり感動した。

	<p>4段目の写真は、「身近な自然と関わり豊かな心と体を育む食育活動」の様子である。南食育サポートの方に栽培の指導をしていただき、子どもたちは野菜を身近に観察し世話をしている。収穫できた野菜を給食の食材に取り入れ「食べる喜び」「人や物への感謝」の気持ちを育てていきたいと考えている。今年度は、春にはいちごや玉ねぎ、夏にはキュウリやトマトをはじめとする夏野菜、秋にはさつまいも、冬には大根や白菜、ネギをはじめとする冬野菜などの収穫を行った。</p> <p>今はいつでも、どこでも季節や旬に関係なく食べ物が手に入り、とても便利になったが、園生活の中で、季節の移り変わりを感じ、旬の野菜を収穫して食べる喜びや楽しみを味わうことのできる環境の素晴らしさを体験していくことも大切なことだと考えている。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な行事が中止となったり、内容を大きく変更し、工夫して行うなど、これまで通りとはいかない日々が続いている。社会環境が変化しても、豊かな体験を通して子ども達が学ぶ意欲や自分が住んでいる地域に愛着を持ち、自己肯定感を持って心身共に健やかに成長できるよう、これからも様々な工夫や新たな試みをし、保育の充実を図っていききたいと思う。</p>
<p>南保育園 父母の会会長</p>	<p><南保育園> 父母の会報告</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「友ちゃんズ」の絵本の読み聞かせができなかったが、クラスごとに5日間に分けて「お楽しみ会」を開くことができた。</p> <p>クリスマス会にはプレゼントを準備した。これから終了・卒園記念のプレゼントも準備している。</p>
<p>西保育園園長</p>	<p>西保育園（資料1-2）</p> <p>西保育園は令和元年の7月頃から増改築工事が始まった。令和2年4月、新年度スタートに回廊・未満児棟を使っでの生活が始まった。5月に調理棟の稼働、6月には、園児家族や地域の方の協力も得て芝生を植えた。8月下旬頃から園庭も使用できるようになり今に至っている。コロナ禍の中で、感染拡大防止に精一杯努力しながらも子ども達と楽しく過ごせるように工夫しながら過ごしている。今年度は、主に新しくできた回廊や未満児棟での生活、2つの山を備える園庭での遊びについて報告する。</p> <p>はじめに「園庭での遊び」について。園庭の完成を心待ちにしていた子ども達。かけっこをしたり大小の山の上からコロコロ転がって遊んだりと全身を使って遊んでいる。真ん中の鉄棒をしている写真は保育参観 運動遊びの</p>

様子。園庭の中央に2つの山があることで、山を利用した種目を考えた。山の斜面を利用しての網くぐり、山に登ってゴールできる内容にするなど、楽しめる参観になった。右側の写真は、年長児の様子。お部屋の中で望遠鏡をつくっていた時に、一人の子が「山の上で空をみてみたい」とひと言。望遠鏡が完成すると早速外へ出て大きい山に登っていた。「お空が近くなったよね」「ほんとだー」と歓声をあげていた。子どもらしい素直な姿にほっこりした一場面だった。園庭に遊具はないが、鉄棒や平均台など移動遊具を用意して遊んだり、鬼ごっこや花いちもんめなど友達との関わりを大事にする遊びをして関係を深めることが出来た。芝生の園庭は、芝生がクッション代わりとなっていて転んでも大きな怪我にはつながない。未満児クラスの子ども達も、安心してコロコロ転がったり、山の斜面を登っている。脚力とバランス感覚、体幹などが鍛えられる。遊具がないことに加え、子ども達の興味関心にあった保育士の仕掛け作りで、西保育園の目標でもある体力作りの取り組みに繋がっている。

2段目・3段目の写真は、回廊やプレールームでの遊びの様子。園庭を囲んで広くて長い回廊は、天気の影響を受けることがない。かけっこをしたり手押し車をしたり、移動遊具をおいてサーキット遊び場にしたりして体を動かす遊びを存分に楽しんでいる。左の写真は回廊を使ってのお楽しみ会の様子。回廊をエリア分けしてあそびのコーナーを設けた。夏から秋にかけてよく耳にされていた、「go to トラベル」をもじって「go to フェスティバル」とネーミングをし、体を動かすエリア、落ち着いて製作するエリア、人形劇を見るエリア等々静と動を織り交ぜて1週間にわたって遊んだ時の写真。コロナの関係で分散型の保育ということで今までの行事のあり方を変える事にもなり、十分に遊びこむことができるようになった。

未満児棟の未満児クラスの前にも広い回廊がある。回廊が保育室の延長となり、少しの仕切りを使って遊びのコーナーが設けられている。回廊にちよこんと座って園庭を眺め、夏、秋、冬と季節を感じている。夏には、シートを敷いて夏の遊びを楽しんだ。照り付ける太陽を気にすることなく遊べた。少しの工夫で安心・安全にゆったりと遊びを楽しむことができた。芝生の園庭はトンボをはじめ小鳥たちの憩いの場にもなり、姿をみせてくれた。可愛いお客様に大喜びの子ども達だった。移動式図書館「おはなしひろば」を回廊につくった。天気や気温、保育の状況に合わせて絵本ラックとベンチを移動させ、ゆったり絵本が読める空間、保育士の読み聞かせのコーナーになっている。ランチごっこも楽しんだ。園庭を見ながらの給食はより食欲をそそる。コロナの関係で黙食をしているので、景色や跳んでくる鳥などを見ながらおいしくいただいている。

	<p>未満児棟のプレールームは未満児組専用の遊戯室になる。普段は鉄棒、ボールプール、移動式滑り台などを置いて遊んでいるが、夏には夏祭り、お店屋さんごっこ、秋にはハロウィーンパーティ、冬にはクリスマス会のイベントを楽しむ場所にした。室内はもちろん、回廊も飾りつけることで何日にも渡って楽しむことができた。</p> <p>以上児においても未満児においても わくわくするような保育環境・ネーミングにこだわり進めてきた。3月にお別れ会がありますが、1週間かけてのイベントとなるように計画中である。</p> <p>4段目の写真は、年長児が 秋の遠足に出かけた時の写真。5年前の北保育園の建設をきっかけにはじまった「木育」。北保育園の建設には勿論、西保育園の未満児棟の梁（はり）や柱になる木の提供をしてくださった大口町に本社を構えるタイム技研さん所有の山に出掛け、自然の中で木の伐採見学、丸太の皮はぎ体験、丸太の運搬体験、森の散策など貴重な体験をさせていただいた。左の写真は桜の木の植樹の様子。大口町古来の桜で、100年以上前から自生する桜のクローンだそうです。大きく立派に育つようにみんなで願いを込めた。山の環境保全のためには間伐が必要だが、植樹をとおして木を育む大切さも学ぶことが出来た。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため保護者の方にもご協力や理解を得て過ごすことになった。また、地域との交流は難しいところがあったが、食育サポートさんとの栽培活動が再開し、野菜の栽培・収穫体験ができた。また、「保育園の子ども達は元気でやっています」と散歩に出掛けた際には、地域の方に挨拶をし、つながりを持ってきた。地域とのつながりを大切にしながら、「子ども達を真ん中においた町づくり」を目指している。</p>
<p>西保育園 父母の会会長</p>	<p>西保育園 父母の会報告</p> <p>1年を通して役員が全員集まることがなかった。オイスカのエコキャップを回収したが、コロナの影響もあって例年より少なかった。園でのイベント（お祭り）に、プレゼントを用意した。クリスマス、卒園・終了用にプレゼントを用意している。</p>
<p>北保育園園長</p>	<p><北保育園>（資料1－3）</p> <p>今年度はコロナ禍で、「新しい生活様式」を取り入れたり「ソーシャルディスタンス」を保ったりしながら、子どもたちの安全を第一に考えた生活、保育を行ってきた。その上で、感染予防に加え、子どもたちと一緒に「健康に過ごすこと」「自分の命を守ること」を意識して、戸外遊びや運動遊びを</p>

多く取り入れ「体力増進」を図ったり、食事や休息にも気をつけ「健康な体作り」を行ってきた。その結果、感染症など流行することもなく、病欠欠席する子も少なく過ごせた。

北保育園建設から取り組み始めた木育も今年度、6年目を迎えた。コロナ禍ということもあり、普段よりじっくり木と向き合い、取り組むことができた。建設の破材やタイム技研さま所有の「21世紀創造の森」からいただいた木がたくさんあるので、それを使っていろいろ作ったり遊んだりした。

保育士が電動のこぎりで木を切り、紙やすりをかけキーホルダー、多目的ボタン、つみ木など作った。集中して削ることで、角がとれ仕上がっていくのを喜び、何個も作ったり、妹の分も作ったりした。木育の5つの力、『根気や、やる気』を育んでいる。

マイ箸作りでは、本来なら親子で取り組む予定だったが、コロナ禍ということで保育士や年長児に教えてもらいながら、年中児が今、頑張っているところである。年長になった4月からマイ箸で給食を食べることを楽しみしている。時間をかけて木から箸を形成していくことで、愛着も出てきて、とても大切に扱っている。木育の5つの力、『モノを大切に作る心』『根気や、やる気』を育んでいる。

年長児と年少児と一緒に椅子のケアをした。木でできた椅子は、ささくることがあり、年長児がケアの仕方を知らない年少児にやさしく丁寧に教えてくれた。年少児はお兄さんお姉さんが教えてくれるのを真剣に聞き、ツルツルになった椅子を喜び、大切に扱う様子が見られた。木育の5つの力、『協力する心・気遣う心』を育んでいる。

他にも「21世紀創造の森」からいただいた枝の皮はぎを子どもたちの前で実践したり、回廊でコーナー遊びをするなどして、木に囲まれた園舎の中で木や自然に触れ、木育の5つの力、『木と樹のつながりを感じる力』を育み、自然やいのちを大切にすることを伝えている。

今年度はコロナ禍で北保育園ふれあい交流会をはじめ地域の方との交流が行えず、とても寂しい思いをしていた。しかし、4、5月の緊急事態宣言発出中に、自宅でこまや飛行機を折り紙で折り、持って来てくださったり、秋にはどんぐりにひらがなや数字を書いて子どもたちが遊べるようにして持って来てくださるなど、コロナ禍を利用した子どもたちへの思いを嬉しく思った。

草や芝生の生長が著しい8月には、地域の方が密を避け、数名で芝生の手入れに来てくださった。暑い中マスクをはめての作業でしたが、とても助かった。

	<p>カモミールの種まきとさつまいも掘りは、どちらも地域の方からお声を掛けていただいた。密を避けて分散して出かけたので、ゆったりと自然に触れたり、休耕田の中を走ったりして、存分に遊ぶことができ、コロナ禍のメリットを感じる事ができた。また、保育園では経験できない貴重な経験を、このコロナ禍にさせていただけたことを、とてもありがたく思っている。</p> <p>コロナ禍は蜜を避けたり、ソーシャルディスタンスを保たなければいけないことから、人との関わりが希薄になる心配が懸念されるが、地域の方は常にやさしく、温かく、子どもたちを見守ってくださっていることを痛感した。新しい形の生活や保育の中だが、子どもたちの育ちに大切な、人との関わりは希薄にすることなく大切にしていきたいと思う。</p>
<p>北保育園 父母の会会長</p>	<p><北保育園 父母の会報告></p> <p>一年間を通して保育園の畑の世話を役員で分担して行った。保育園の畑ではいちごを育てているが、緊急事態宣言中にいちごの収穫があり、園児がいちご狩りをして食べることはできなかったもので、保育園でいちごを摘んでもらった。畑の草抜きも行った。</p> <p>父母の会より足踏みの消毒スタンドを寄贈したり、オイスカのエコキャップの回収をした。クリスマスプレゼントで3歳以上児にはマスクケースなど感染対策のものなどを用意した。現在は卒園進級に向けたプレゼントを選んでいるところである。</p> <p>保育では先生たちの工夫で、子どもたちも「楽しかった」と言って帰ってくるので、非常に感謝している。</p>
<p>大口中保育園 園長</p>	<p><大口中保育園> (資料1-4)</p> <p>コロナウイルス対策、新しい生活様式における保育園での取り組みとして子ども同士の関わりが多く、3密を避けることが難しいが、安全に園児をお預かりするため、日々何ができるか模索しながら保育を行っている。例えば、子ども同士の接触や遊具などの共有等が生じやすいことから、園児が遊びたくなる拠点の分散、子ども同士が向かい合わないような遊具等の配置の工夫。遊びが主体的に様々な場所で活動している実態を踏まえ、適時、手洗いや消毒ができるよう配慮すること。また、給食では、3人掛けの机を2人で使用したり、飛沫防止のパーテーションを使用する、なるべく静かに食べるなどの取り組みを行っている。</p> <p>大口中保育園の特色として、主に体力作り、運動遊びに力を入れてきた。年長児が竹馬に挑戦した。最初は誰一人乗れなかった竹馬。園にある低い竹馬に乗り始め、支えてもらいながら一歩ずつ歩き、一人で乗れた時は大喜びだった。</p>

た。運動が苦手な子も必ず乗れるよう保育士にコツを教えてもらったり、友だちに応援されながら乗れるようになるまであきらめず、何度も転びながらも今も一生懸命取り組んでいる。

体操教室では運動遊びに取り組んだ。各年次、月1回～2回程度、専門指導員による体操・運動遊び（跳び箱鉄棒・マット運動など）を中心に体操教室を行っている。一人ひとりに合った目標を立てたり、アドバイスをいただきながら取り組んでいる。

運動会には、日頃の成果を保護者の方にも見ていただける時間を設けた。サッカー教室・水泳教室も年に数回取り入れ、それぞれの種目の楽しさを体験できるようにと教えて頂いている。

2段目の左の写真は、毎朝行っているサーキット遊びの一場面。小さい写真に園児が持っているカード「縄跳びカード」持って並び、跳んだ記録を書いている。毎日記録更新をとっていくことで目標を持ち、日々新記録を更新出来るよう楽しんで取り組んでいる。

隣の写真は最近、足腰もだいぶ強くなってきた2歳児あひる組の子どもたち。先日散歩で行った歩道橋の階段の上り下りに挑戦した。手すりをつかみながら慎重に進んでいる。上までのぼりきると、自然と「やったー」と声をあげていた。

右の写真は、1歳児のひよこ組。一人がぶら下がるとそれをそばで見ていた他の子ども達も同じようにぶら下がり、並んで足をぶらぶら。ちゃんと足が地面に着かないように上げて踏んばる姿が見られた。最初はすぐに足を着いていた子ども達も、友だちが足を上げてのを見て、模倣して必死に足が地面に着かないように上げてみたりして、隣りの子をしっかりと観察していることを感じた。子ども達はとても楽しく遊びながら腕や体幹の力をつけていくことができた。

異年齢活動について、新型コロナウイルス感染症が拡大し、一番大きく変わったところは行事の取り組みである。この状況下で一つ一つの行事や活動の実施方法を考えることは、その行事や活動の本来の目的やあり方を見直す機会ともなった。なるべく大きな集団を作らないことを前提に変更し

行事として毎月行っている「誕生会」がある。大勢の人から祝われる喜びを知り、また同じように友達を祝う大切さを知るということを大切に考えて、みんなが集まらなくても祝える方法として、ソーシャルディスタンスを取りながら園庭でお祝いしたり、誕生児の子は、登園後、肩にワッペンをつけ皆に今日が誕生日だとわかる目印を付ける。ワッペンを付けた子を見つけたら、「おたんじょうびおめでとう」と声を掛けるようにしてみた。

季節の行事では、子どもたちの興味、関心をベースに、一つのテーマ

をこども達で探求する活動を取り入れていった。七夕の行事として年長児のアイデアで夏祭り風のお店を作って、七夕ウィークとして一週間かけて行ったり、クリスマスの季節では、年少・年中児を楽しませてあげようと段ボールでそりを作り、乗せてクリスマスの雰囲気盛り上げてくれた。異年齢での関わりで、年長児が頼れる先輩として年下の子ども達に遊びを教えたり、ルールの意味を分かりやすく知らせたりと保育士の仲立ちを必要とせず、子ども同士でまとまっていったことには驚かされた。

園庭での遊びの中で、一番流行っていた遊びは「色水作り」である。水に色を付けるといったシンプルな遊びだが、子ども達は色々な遊び方を思いつき、実践し始めたりした。、オレンジジュースやメロンジュースなど求める色を作れるように、集めてきた植物をすりつぶしたり、絵の具を混ぜ合わせるなど、年長児が中心となり、試行錯誤しながら作っていた。ペットボトルからカップへ繰り返し水を入れて遊ぶので、知らないうちに中身の重さによって傾ける角度が感覚で分かるようになっていった。

次の写真は、音楽コンサートをお知らせするポスターを貼っている様子。保育参観で発表しようとして取り組んできた「楽器遊び」だったが中止となり、誰かに聞いてもらいたいという気持ちが高まり、園内コンサートに変更した。手作りのポスター、チケットも自分たちで作って配り、人数制限をしながら素敵なコンサートを見せてくれた。

こども同士が自分たちで徹底した話し合いをすることで、今まで接点のなかった子どもどうしが話し合いを通して仲良くなったり、協力して歌や踊り、大道具小道具作りに励み、子どもたち同士の協調性が出た。子どもたちの満足感や充実感は大きく、心を1つにして何かを作りあげる喜びを大いに感じられたようである。

食育の一環として、3年前より和菓子作りを行っている。和菓子作りを通して、日本の文化に触れ、和菓子の形や材料などにも興味を持つことができるきっかけになればと計画した。和菓子の先生に教わりながら、中に入れるあんを丸め、優しく生地で包む真剣な様子が見られた。

このほか自主事業として、一時預かりを行っている。今年度は、昨年と比べると利用者は減少したが、就労・リフレッシュ、就職活動などの理由での利用があった。9月からは、未満児の使用後のオムツの回収を始めた。保護者の方からは、持ち帰りがなくなり、衛生的だと大変喜ばれている。

今年度も保護者の皆様からアンケートにより、貴重なご意見ご感想などを頂いた。その内容をしっかりと理解し対応しながら、今後も、大口中保育園の特色を大切にしつつ、子どもたちの健やかな成長と、保護者の皆様からの安心感・信頼感を大切に、取り組んでいきたいと思う。

<p>大口中保育園 父母の会会長</p>	<p><大口中保育園> 父母の会報告 今年度は、新型コロナウイルスの影響でイベントなどができなかったため、父母の会の活動としては、行事ごとのプレゼントを用意した。卒園進級プレゼントを用意している。</p>
<p>議会議員代表</p>	<p><質問・確認> 特にコロナの感染対策ということでご苦労されたことはよくわかるが、逆にお話を聴いていると分散型の保育、学年別の運動会、保育の見える化など、むしろコロナの前よりも充実した保育園の運営ができているように感じた。コロナの問題、保育士の人数的な問題などもいろいろあるのだろうが、新しい保育の形をすでに模索されていると思うが、逆にコロナの影響で保育の質が高くなったような気がするがどうか。</p>
<p>保育長</p>	<p>保育指針の改定が数年前にあって、子ども一人一人を見つめながら、個々に合った保育をしている。また子どもの思いを大切にする主体性、主体的な保育を保育園では心がけている。今まで集団で子どもを見るということをしてきたが、分散型により少人数で子どもを見ていくので、お子さま一人一人の成長の姿を非常によく見えるようになった。職員と子どもの関わりも密になったということで、保育園でも非常に良い効果が出ている。一年を経験してきて良かったことは、「来年度も引き続き継続して行っていきたい」という意見が大口中保育園を含めた園長会でも出ている。コロナ禍だからというわけではなく、今まで行ってきた保育を見直す良い機会になったので、これをベースに更に良いものにしていきたいと考えている。</p> <p>(2) 令和3年度保育所運営について 令和3年度の入園申し込みの手順をコロナの影響で大幅に変更した。各保育園での入園説明会をやめ、書類をホームページからダウンロードしたり、福祉こども課に受け取りに来ていただく方式をとった。園の紹介を健康文化センター玄関に掲示させていただいたり、各保育園のホームページをみたり、個々で園訪問や質問等にお応えできるような方法にした。面接においても、健康文化センターで行い、感染リスクをできるだけ避けるように行なったが、トラブルもなく順調に入園の手続きが進めることができた。</p> <p>(ア) 令和3年度保育園園児数について 11月30日に申し込みを締め切り、審査を行い、2月12日に保育所利用承</p>

諾書を送付した。審査後の申し込みや退所児が出てきているので、見込み数とさせていただきます。資料は、2月15日現在の把握分となる。

表の左側が、各保育園の定員数、真ん中が令和3年度利用見込み数となっている。右側は、昨年度の状況を参考に載せさせていただいている。利用見込み数は、年度内に入ることが決定している途中入所児 35名を含む人数となる。

南保育園 定員145名のところ、126名

西保育園 定員265名のところ、222名

3歳以上児定員を見ていただくと130名になっているが。利用見込み数は131名。1名のオーバーになっているが、大口町では、各保育園の総定員を超えないように、3歳未満児と3歳以上児の人数バランスをとっている。面積基準や保育士配置基準を考慮しながら、できるだけ保護者さんの希望にそえるように柔軟な対応をさせていただいている。

北保育園 定員210名のところ、182名

大口中保育園 定員170名のところ、161名

大口中保育園の3歳未満児においても、定員より2名オーバーしているが、先ほどの西保育園の説明と同じく、柔軟な対応をしている。

4保育園総合計 定員790名のところ、691名。

(イ) 年間事業計画について「ことしのあゆみ」

令和3年度の幼児向けの交通安全スローガン

「じてんしゃに のるならきみも うんてんしゅ」

家庭でも合言葉にし、交通安全に十分注意をしていただきたい。

保育園の入園式については、小学校に準じて決めている。6日(火)が入学式になるので、保育園は4月5日(月)を入園式となる。

<保護者参加部分の説明>

4月～5月、年中児と年長児の保育参観を予定。新型コロナの影響で保育参観ができていないため、早めに行う。年少児は、入所間もないため、この分は9月に予定。

5月、保育園緊急メールを登録していただき、引き渡し訓練を行う。

例年、春の遠足を実施しているが、新型コロナの影響でお弁当を食べることが難しいと思われるので、お散歩をして、給食を食べる。

6月～7月、保育参観で音楽遊びを行う。

10月2日(土)今年度の運動会の経験を活かしながら、方法を考えていく。

10月 秋の遠足。年長児はバス遠足を予定。

事務局

- 10月 未満児保育参観
- 12月 保育参観「お話ごっこ」 生活発表会ではなく、保護者対象の保育参観で、劇遊びやお話ごっこをみていただきたい。
- 2月 保育参観
- 3月28日(月) 卒園式

土曜日保育の実施園については、町立保育園のお子さんは、西保育園にて実施、大口中保育園は自園で行う。休日保育については、4保育園児対象に、西保育園にて集約して実施する。工事の関係で、2年間北保育園で行ったが、工事も完了したので、西保育園に戻す。

(3) 大口中保育園空調設備改修工事について(資料4)

大口中保育園空調設備改修工事概要。工事の目的は、大口中保育園の園舎が建設から28年が経過し、施設の定年劣化に加え、空調設備に不具合が生じており、早期に修繕の必要がある。この施設の空調設備が全館集中方式で、室外機や送風機本体に不具合が生じることで、すべての空調が停止してしまうということから、この空調設備工事により個別空調方式に変え、保育環境の改善を図っていききたい。

これまでの経過として、令和3年に入って必要な手続きを踏んでいる。1月20日に保育園の売買契約を締結し、2月2日に厚生労働省保育所等整備交付金の事前協議を提出した。

保育園舎の売買契約は、平成26年に社会福祉法人宝光福祉会さんの方へ運営を移管して、6年が経過している。園の特色である体力づくりをはじめ、それらを活かした保育を進め、実績を上げられている。また、今後事業の拡大も視野に入れられているということから、空調設備を改修するにあたり、厚生労働省保育所等整備交付金を受けることになるが、そのためには建物の所有者を社会福祉法人宝光福祉会さんにする必要がある。不動産鑑定評価に基づいて、売買価格1円での契約を締結した。なお厚生労働省保育所等整備交付金を受けることによって、国から工事費、及び事業費の1/2を町が交付を受けた。それに町からの持ち出し1/4を上乗せして、社会福祉法人宝光福祉会さんに3/4補助する。

今後の予定は、2月下旬に大口中保育園を所有者とする所有移転登記、4月中旬に厚生労働省保育所等整備交付金の事前の内示、4月下旬に入札、5月初旬に工事着工、6月までに工事完了という予定になっている。入札については、落札業者の知恵や技術を活かしつつ、設計施工方式を採用する予定となっ

保育長	<p>ている。</p> <p>工事期間の間、園児、保護者のみなさまにご不便をおかけすることになると 思うが、ご理解とご協力をお願いしたいと思う。</p> <p>3 その他</p> <p>第1回保育所運営委員会の中で、佐名議員より、紙おむつの対応について の質問があった。汚れたおむつを移動させることは、衛生面においても感染 症のリスクからもよいことではない。特に新型コロナウイルス感染症の面か ら消毒の徹底を図ってきたが、9月から、大口中保育園では紙おむつの持 ち帰りではなく、園での処理を先行実施された。</p> <p>町立保育園についても、来年度より、保育園での処理を行う方向で進んで いる。</p> <p>閉会の挨拶</p>
-----	---